

# ～貝に卵を産む淡水魚を保全する～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：地域住民との協働による絶滅危惧種タナゴの生息地外保全の試行

研究代表者：総合政策学部 講師 鈴木正貴

課題提案者：農の未来 武道 竹田浩久

研究メンバー：辻盛生（総合政策学部）

技術キーワード：絶滅危惧種、保全池造成、移植、モニタリング

## ▼研究の概要（背景・目標）

希少淡水魚タナゴとその産卵基質である淡水二枚貝類が生息する盛岡市内の水田地帯で（図1）、圃場整備事業が導入される。そこで、これら希少水生動物を保全するため、「新規の保全池・水路への移植」が計画された。本研究では、保全池・水路の構造や効率的な移植方法を検討・試行した。

## ▼研究の内容（方法・経過）

### 1. 調査対象：

盛岡北部、北上川沿いに位置するタナゴ生息池、および新規造成した本種の保全池と近隣を流れる土水路。

### 2. 調査内容：

- ①生息池におけるタナゴの生息状況。
- ②保全池（中）におけるタナゴとタガイの生息状況。
- ③二枚貝類の移植の試行。
- ④保全池（大）の設計・造成（図2、写真1）。
- ⑤保全池（大）の効果検証。

## ▼研究の成果（結論・考察）

- ・2014年から2017年にかけて、生息池におけるタナゴの個体数推定を行ったところ、2017年以降、生息数が減少している可能性が示唆された。しかしながら、その原因は不明である。⇒生息池の水位を低下させ、多人数による採捕を試行。
- ・試行的に造成した保全池（中）において、タナゴの越冬を確認したが、他方で2018年6月時点において再生産は未確認である。⇒モニタリング継続の必要性。
- ・保全池（中・大）において、ドジョウ、トウヨシノボリなど新規侵入魚種の生息を確認した。⇒淡水二枚貝類幼生の宿主。⇒淡水二枚貝類の再生産を期待。
- ・保全池（中・大）において、アカハライモリやゲンゴロウなどの希少水生動物の生息を確認。⇒造成した各保全池が、多様な生物の生息環境として機能。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- ・生息池における個体数減少が危惧されることから、灌漑期終了後、すみやかに池内の水位を低下させて、多人数により採捕を試みる。⇒移植を目的としたイベント開催を予定。
- ・タナゴおよび淡水二枚貝類の再生産に注視して、モニタリング調査を継続する。

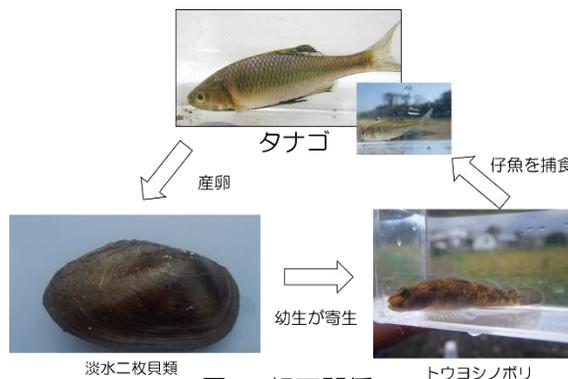


図1 相互関係

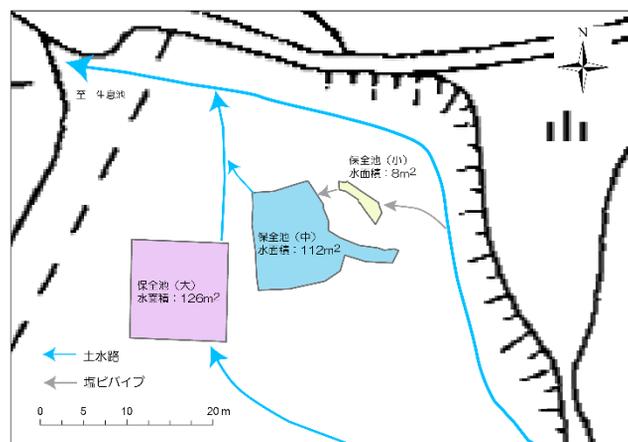


図2 各保全池の概要



写真1 各保全池の空中写真